

宮城 社会

＜大川小訴訟＞「山へ逃げて」と担任に伝える

石巻市大川小の訴訟で、東日本大震災の発生直後に校庭を訪れた女性保護者（49）ら証人2人と原告の計3人に対する尋問が21日、仙台地裁であった。保護者は「津波が来ると思い、6年の担任教諭に『山へ逃げて』と伝えた」と証言した。

保護者は2011年3月11日の地震発生直後から午後3時10分ごろまで、当時6年の娘を迎えに校庭を訪れた。「自家用車のFMラジオで2メートル、6メートル、地形によっては10メートルの津波が来るかもしれないと聞き、校庭で担任に『山に逃げて』と大声で伝えた」と証言した。担任は冷静に「落ち着いてください」と応じ、娘を引き渡したという。

娘から後日、「教室から校庭へ避難する途中、教務主任の先生が『山に逃げろ。こんな大地震で津波が来ないわけがない』と言っていた」と聞いたという。

市河北総合支所元副参事の男性（61）は広報車で大川小より海側の地区に向かう途中、「松林を越える水しぶきと2～3メートルの津波を見て、すぐにUターンした。高台避難の広報を同乗者に指示した」と話した。

大川小がある釜谷地区では速度を緩め、新北上大橋たもとの堤防道路（三角地点）に停車後も同地区に向けて広報を続けたという。元副参事は「（広報内容は）学校に伝わっていると思った」と述べた。

今月8日の証人尋問には、当時不在だった柏葉照幸元校長（62）ら2人が出廷し「大川小は市の避難所に指定されており、津波が来ることは想定していなかった」などと証言した。